Ⅰ　実践

1　研究主題

自己肯定感や共感的な人間関係を育む人権教育の在り方

（1）主題設定の理由

本校は、全校生徒１１８人の小規模校であり、生徒同士の関係が密であると共に、先輩・後輩の間柄も和やかである。小学校からの人間関係が大きく変わることがないために、生徒同士が男女を越えて家族的な親しみ方をしている反面、不用意な発言や態度がもとで、一度関係が崩れると修復が困難になる傾向が見られる。様々なタイプの個性と混じり合う機会が少いため、一度できてしまった固定観念を打ち破ることがなかなか難しい。そこで、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」態度を養うことを重点目標として、本主題を設定した。

（2）研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

（3）研究内容

ア　職員研修の充実

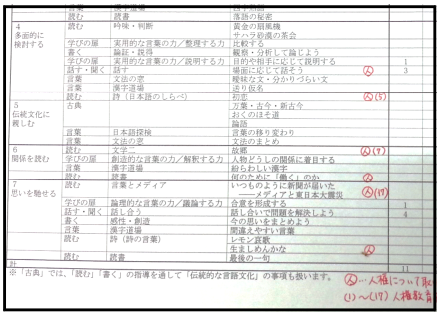
イ　人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営を行う。

ウ　学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通して人権尊重の精神を育む。

2　実践内容

（1）教育活動全体を通して人権教育の実践を図るための職員研修の充実

ア　全教科にわたり、人権課題項目を入れた指導計画の作成を行った。（H30.8.7）



人 …学習材名欄に人権教育として、取り上げられるもの

（　）…「みんなえがおー人権資料集第４０集（様々な人権課題）」の番号

【各教科における人権に関わる題材の実践例】

・国語　小さな労働者（2年）…（２）子どもの人権

・社会　歴史「身分制度」（2 年）…（５）同和問題に関する偏見や差別

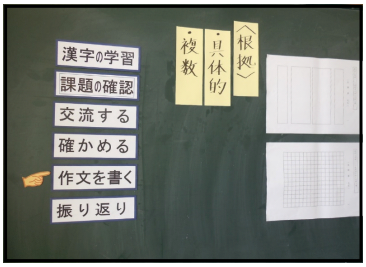
・英語　Try to Be the Only One（新垣 勉）(2 年)…（７）外国人

・音楽　黒人霊歌　JAZZ　アメリカンポップの歴史…(その他)米国の人種差別

・美術　これからのデザイン(2 年)…(2)子ども、(3)高齢者、(4)障害者

・体育　性感染症とその予防（エイズ）…(８)HIV 感染者やハンセン病患者など

イ　学校課題研究における一人一人を大切にした分かる授業の在り方の研究



①ユニバーサルデザイに基づいた授業の流れが分かる学習環境（左写真）

②授業の流れもパターン化：「自分の考えをまとめ」て、「人と対話して発展」最後は「自分で振り返る」を定着させ、すべての生徒に安心感を与える。

③少人数学級の生徒が定期テストを受ける際、必要な場合は、ルビをうったテスト問題を配付する。

ウ　生活アンケート調査（毎月）や QU テストの分析（年３回　５月、１１月、２月）と活用

（2）学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通した実践

ア　生活委員会を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかマナーアップ運動」を１年間を通して行い、誰にでも明るく元気にあいさつができるように中心に取り組んでいる。

イ　JRC 委員会を中心に仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動を行っている。部活動単位や有志など、毎回多くの生徒が積極的に参加している。人の役に立つ活動を通して、社会奉仕に伴う喜びを知り、社会への奉仕の意義について考えを深めることができている。

仲町学区ボランティア５月（除草作業）　敬老会９月　かるた大会１２月

ウ　エコサイクル（平沢中学校学区内の再生資源の回収活動）

JRC 委員会の計画のもと、再生資源の回収活動に取り組んだ。また、生徒会が中心となり、エコサイクルの収益金の一部と文化祭での募金を合わせて北海道胆振東部地震の被災地へ支援を送った。この活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

再生資源を回収するエコサイクルの様子　文化祭での募金活動

エ　心豊かな体験学習や地域防災訓練等から学ぶ活動

第１学年の心豊かな体験学習では、地域の方からうどん作りを学び、お年寄りの方を招いて会食会と交流会を実施している（６月）。また、地域防災訓練を１０月に実施し、避難所設置の体験や応急処置の仕方を地域の方と共に学んだ。地域の方との交流は、小さな子どもやお年寄りへの配慮について考える貴重な体験となっている。

地域防災訓練

心豊かな体験学習（うどん作りとお年寄りの皆さんとの交流）　避難所設置体験　応急処置の仕方

３　成果

本校の特徴として異学年でグループを組み活動する機会が多い。上級生は下級生に様々な配慮をしながら活動し、その様子を見て、下級生は上級生をお手本に行動を学習する、という体制ができている。学び合いながら他者を理解し、人を大切にする気持ちが育っていると考える。また、地域と密着した継続的な体験活動では、周囲の方々の励ましやねぎらいの言葉をいただき、地域への愛着と共に自己有用感を満たすことにつながっている。

Ⅱ　今後の課題

本年度は、学校課題研の協力のもと、一人一人を大切にした授業の在り方や学習環境について研修を深めることができた。人権教育とは、日常の様々な活動で感覚を働かせ人権意識を高めていけることを改めて確認した。これをもとに、学校教育活動全体を通して計画的継続的に実践していけるように努めていきたい。また、外国人、障害者、高齢者等、社会の中に潜んでいる様々な人権問題を人権だよりや人権コーナーの掲示物等で取り上げ、正しい知識を身につけると共に意識啓発を図っていきたい。